

2013年9月21日・図書新聞欄では

日本とベトナムの国交樹立40周年記念出版

コールサック社

日本とベトナムの国交樹立は1973年。今年で40周年を迎える。それを記念して詩書出版を手掛けるコールサック社から今夏、2冊の本が刊行された。ベトナムの詩人105名、日本の詩人70名による詩のアンソロジー『ベトナム独立・自由・鎮魂詩集175篇』、そして、パリ和平協定の解放同盟の外相で、後にはベトナム国家副主席にもなったグエン・ティ・ビン女史の回顧録『家族、仲間、そして祖国』だ。刊行にあたって、8月6日（火）東京・六本木の国際文化会館別館において記者会見が開かれた。同社代表の鈴木比佐雄氏は、7月31日にベトナムに渡り、ビン女史やベトナム文学同盟幹部に出来上がった2冊を手渡してきたばかり。国交樹立40周年という節目の年に刊行できたことの喜びを現地で分かち合った。アンソロジーは日本語、ベトナム語、英語の3カ国語仕様となっており、詩の翻訳の難しさが語られた。その困難はネイティブの方々を多く起用することで実現することができたのだという。ベトナム語翻訳にあたっては大阪大学の富田健次教授と清水政明准教授の尽力が大きい。英訳担当の郡山直氏も詩の翻訳の難しさについて触れ、ベトナムと日本の詩が世界に発信されることの大きな意義を語った。編集にあたった佐相憲一氏によれば、日本の詩人にベトナムについての詩を公募したところ、当時を知らない若い世代の詩人たちも詩を寄せてきたという。そして、今回のアンソロジーには寄稿していない多くの詩人たちもこの企画に賛同の意を表していたことに言及した。

会見では、ビン女史の『回顧録』に跋文を寄せている、作家で元ベ平連世話人の小中陽太郎氏も登壇し、2冊が刊行されることの意義、そしてベ平連の創設者である小田実氏の長女、小田なら氏が本書の翻訳に参加していることの喜びが語られた。

なお本書は枯葉剤被害者支援企画として刊行されており、ベトナム最大の記念日である「枯葉剤被害者の日」の8月10日が奥付発行日となっている。『回顧録』の売上10%、『ベトナム詩集』の売上5%が枯葉剤被害者に寄付される。会見は、もしベトナムで書かれていた詩を当時のアメリカの指導者たちが読んでいたら、北爆を開始することなどなかったのではないだろうか、という鈴木氏の静かなしかし熱意ある言葉で締めくくられた。その強い思いが本書に込められている。

と紹介されています。